

## 河川工事も災害廃棄物処理推進に取り組んでいます。

沿岸部を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災から間もなく2年が経過しようとしていますが、ご存知のとおり、震災により発生した災害廃棄物(木くずなどの可燃物や不燃混合物、コンクリート・アスファルト・金属くず等)の処理がなお大きな課題となっています。

災害廃棄物の処理は「東日本大震災により生じた災害廃棄物の処理に関する特別措置法」により、被災各県が「処理に関する方針」と「処理の内容及び実施時期等を明らかにした工程」を定め、再生利用・焼却処理・埋め立て処分が進められています。

このうち、可燃物や不燃混合物の一部は、セメント工場でセメントを作る際の原燃料として利用されており、一関出張所の河川工事でも、そのセメントを用いたコンクリートを使用しています。

身近なところだと、一関市街地を流れる磐井川で現在工事中の「上の橋排水樋門改築等工事」において新しい樋門や水路を作るのに使用し、災害廃棄物の処理推進に取り組んでいます。



←『上の橋排水樋門改築等現場』

ブルーシート等で養生しているのが、災害廃棄物を原燃料としたセメントを用いたコンクリートを使用して作っている新しい樋門です。



↑現場の工事周知看板にも表記しています。



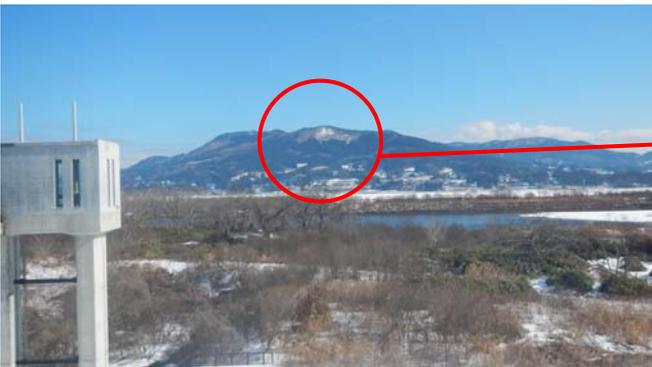
他のコンクリート構造物を作る工事でも、同様に災害廃棄物処理推進に取り組んでいます。

## 北上川から見える風景 ~東稲山に現れる「白い大文字」~

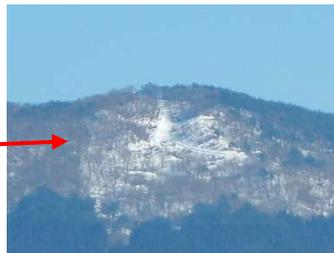
皆さんは冬場に東稲山中腹に現れる「白い大文字」をご覧になったことがありますか？

東稲山では毎年8月16日に、「平泉大文字送り火」が行われており、文字部分が送り火により平場になっているために、雪の降るこの時期にだけこの「白い大文字」が出現します!!

この大文字は、平泉町平泉字泉屋の平泉水辺プラザ付近(県道相川平泉線高館橋そば)で見ることができるほか、国道4号平泉バイパスを走行していても東側にはっきりと見ることができます。



↑自動車でも走行していてもはっきりと「大」の白文字を確認することができます。(運転手の方は脇見運転にならないようご注意ください。)



「東稲山」は経塚山、音羽山、東稲山の総称で、一関市・奥州市・平泉町の境界に位置しています。この「大」の字は約200mもの大きさがあるそうです!! お盆に行われる「平泉大文字送り火」も一度見てみたいものです。

